

## マルチメディアによる教育に関する一考察 : VTRと パワーポイント(PP)による授業を中心に

その他のタイトル	Multimedia & Education : Using VTR and Powerpoint as Teaching Tools
著者	王 耀鐘
雑誌名	関西大学視聴覚教育
巻	28
ページ	43-47
発行年	2005-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/12034">http://hdl.handle.net/10112/12034</a>

## 教学レポート



AV-B教室での「フランス語特別講義」

# マルチメディアによる教育に関する一考察 ～VTRとパワーポイント (PP) による授業を中心に～

王 耀 鐘

## 1、序言

IT革命が産業社会に大きな影響を与えている。それに伴い、大学の教育現場においてもマルチメディアによる教育が重視されてきている。関西大学では、その環境の整備にも力を入れてきた。社会学部の場合、一般の教室には、VTRは勿論のこと、液晶プロジェクターなど、パワーポイント (PowerPoint, PP) 等も使える投写システムを設置する教室もかなり増えている。VTRやPPを取り入れた講義も徐々に増えている。

しかし、VTRやPPを用いた授業の効果、メリットやデメリット、学生の反響などについての調査や研究は殆どなされていない。本稿は、これらの課題についてアンケートによる調査をおこない、マルチメディアによる授業のメリットとデメリット、また、その効果などを究明しながら、これらのメディアを用いる時に、如何に問題点を克服して、教育効果を上げるかについて明らかにしたい。

## 2、授業へのマルチメディアの利用現状

まず、132人の受講者に対するアンケート調査を分析して、VTRとPPによる授業への利用の現状について表(1)のようにまとめた。

### 1) VTRの利用状況

まず、VTRの利用状況について、2回生の場合、5回以下は過半数の56%、6回以上は半数以下の44%だが、逆に3回生以上の場合、6回以上は65%で6割以上を超えている。学年が上がれば受講の機会が増えるので当然のことである。しかし、6回以上を経験した全体の学生の平均は52%で辛うじて半数を超えているのが現状である。

### 2) PPの利用状況

次に、PPの利用状況について、2回生の場合、5回以下しか経験していない学生は68%で7割近くに達し、6回以上経験した学生は32%で、僅か3割強程度である。3回生以上の場合でも、5回以下の学生になると52%である。6回以上経験した学生は、48%で5割に達していない。6回以上を経験した全体の学生の平均も39%で4割も超えていない。

表(1) 受講回数

学年	メディア別	0回～2回	3回～5回	6回～	合計
2回生：80人	VTR	10	35(45)(56%)	35(44%)	80
	PP	32	22(54)(68%)	26(32%)	80
3回生以上：52人	VTR	6	12(18)(35%)	33(65%)	51
	PP	9	18(27)(52%)	25(48%)	52
全体：132人	VTR	16	47(63)(48%)	68(52%)	131
	PP	41	40(81)(61%)	51(39%)	132

注1) 3～5回の中、括弧内の数字は0～2回までの数字を合計して5回以下の数字である。  
%の数字も5回以下の数字である。

注2) 産業情報論で行った3回ずつの講義はこの表のデータに計上していない。

全体の平均からみれば、VTRは5割強で、PPの4割弱を上回っているように見えるが、VTRの場合、平均が高いのは、今年度、特定の講義ではほぼ毎回使用されていることが影響している。さもないと、PPと同じ傾向になるだろう。また、全体の講義数をみれば、VTRとPPを取り入れている講義は、語学関係の講義を除いて推定で5~10%程度以下と見ていいだろう。

### 3、従来の授業のメリットとデメリット

VTRやPPによる授業と比べれば、従来の授業は学生からみれば、下記のようなメリットとデメリットをあげることができる。

#### 1) メリット

- (1) 先生が講義の重点をホワイトボードに書くので分かりやすい。
- (2) 板書を写すので覚えやすいし、あとから復習ができる。
- (3) 講義を聞きながら、ノートを写すので集中しやすく眠りにくい。
- (4) 分からなかったら、すぐ質問ができるので、内容の濃い授業になる。
- (5) 講義の流れに参加しやすいし、先生とのコミュニケーションがはかれる。

#### 2) デメリット

- (1) 言葉の説明では、分かりにくい部分がある。
- (2) ホワイトボードを写すだけの講義になりがち。また、ノートの量が多くなると大変である。
- (3) 先生によってわかりやすかったり、分かりにくかったりする。
- (4) 専門用語をホワイトボードに書くだけで、先生の話聞き損ねたら分からなくなる。
- (5) ホワイトボードに書くインクが大抵薄いので読みづらいことが多い。

### 4、VTRによる授業のメリットとデメリット

伝統的な授業に比べるとVTRによる授業は下記のメリットとデメリットをあげることができる。

#### 1) メリット

- (1) 講義の内容をビジュアル化しているので、話を聞くだけの従来の講義よりわかりやすい。
- (2) 印象に残りやすい。百聞は一見にしかず。
- (3) 直接受講者の視覚に訴えるため、言葉や文字だけで伝えられないことを伝えることができる。
- (4) 体に染みこむ感じがある。
- (5) 従来の講義の補完手段として役に立つ。

#### 2) デメリット

- (1) 内容を聞き流してしまうことが多い。また、ノートが取れないので、あとの復習ができない。
- (2) ボーと見てしまうことが多い。重要な部分が聞き取れなかった時、二度と聞けない。単調になりがちで眠りやすい。
- (3) 時々先生の説明も入るが、タイミングが難しい。質問もできないので、先生とのコミュニケーションがとれない。
- (4) ただ見るだけになるので、重要な話もただ流れるということになる可能性がある。
- (5) どこが重要か自分で判断しなければならないので、重要な場面を見落とすことが多い。

### 5、PPによる授業のメリットとデメリット

従来の方式の授業と比較するとPPによる授業では次のようなメリットとデメリットをあげることができる。

#### 1) メリット

- (1) 内容が簡潔にまとめられているので分

かりやすい。

- (2) PPの内容は印刷して配るとあとで復習しやすい。
- (3) ホワイトボードに書く手間が省けるので、沢山説明が出来る。板書を写さなくてすむので、先生の話を中心して聞くことが出来る。
- (4) 教科書代わりになって分かりやすい。
- (5) どこを話しているかが画面に出ているので講義内容について行きやすい。

## 2) デメリット

- (1) 板書のかわりにPPを使うので、講義の展開が早く、受講者がついて行けないときがある。
- (2) 詳しい説明は言葉のみで行うので、ノートが取りづらい。
- (3) PPの画面を見るだけの授業になりやすい。
- (4) 教室が暗いので、眠りやすい。
- (5) スクリーンの字を読むので、目が疲れやすい。

## 6、VTRによる授業とPPによる授業との比較

VTRによる授業とPPによる授業を比較するとそれぞれ次のような特徴をもっている

### 1) VTRによる授業の特徴

- (1) VTRは映像による視覚的な効果で印象に残りやすいし、映像を見るので、興味も持ちやすい。
- (2) 講義関連のVTRを見ると講義で聴いていたことに関して更に理解が深まる。
- (3) 映像を通して一連の内容をつかみやすいが、文字に残らないので、あとの復習がしにくい。
- (4) VTRが流れ続けるので、先生の説明が殆どなく、また、ペースが早いので、ノートをとるのが大変で、ノートを取っている間に次の映像に進んでしまうの

で、見逃してしまう。

- (5) あまり長いと飽きるのので、眠くなる。また、先生とのコミュニケーションが取りづらい。

### 2) PPによる授業の特徴

- (1) 講義の内容がまとめられているので、簡潔で理解しやすいし、スムーズに授業が進む。
- (2) 分からないところをその場で先生に聞くことが出来るので、先生とのコミュニケーションが従来の講義と変わらない。
- (3) VTRにくらべると、あまり実感が湧かないところがあるが、先生の説明を聞くと十分理解できる。
- (4) 重点だけを知りたいければ、PPがいい。しかし、スクリーンの字を詰めすぎると読みづらいし、目が疲れやすい。
- (5) 文字ばかりになると、飽きやすい。

## 7、今後の課題と展望

VTRとPPによる授業について、学生のアンケートを見れば、上記のメリットとデメリットをあげることが出来る。最後に、筆者の経験と学生のアンケートの意見をまとめてみると、次のような課題を克服しなければならない。

まず、VTRの場合、興味を持たないコンテンツだと居眠りをする学生が続出してしまっているので、学生の興味を引くような内容選びが重要となってくる。また、VTRは受講者の視覚に訴えるのに有効ではあるが、学生にとって講義が終わった後で内容の整理、要点の把握など活字でまとめなければならない困難な作業が待っている。さらに、途中で先生の説明の挿入と学生の質問のタイミングがかみ合わないという欠点も克服しなければならない。従って、VTRを使う場合、先生の講義内容の実例として、補完することが望ましい

が、講義として使う場合、VTRの前か後に、先生の講義を付け加えて、内容と要点の説明を行うか、要点のプリントを配る方法が効果的であると思う。

次に、PPの場合はというと、内容がまとめられているので、わかりやすい。PPの内容をプリントして配ると、重点についてノートをとる手間がかからない。しかし、教室が暗くなることや、先生がスクリーンを読むだけの講義になると、居眠りしてしまう。また、PPの個々のコマの内容は講義の重点のみで、その詳しい内容は先生が口頭で説明するだけなのでペースが早くて、ノート取りが追いつかないという欠点を克服しなければならない。筆者もそのために、個々のコマに少し詳しく書いていたが、今度は、文字が多すぎて、読みづらくなり、目が疲れやすいなどの苦情がでた。この問題をどう克服するかが今後の課題となる。

VTRやPPによる授業に対して評価しない学生も若干みられる。しかし、今後VTRとPPによる授業が従来の授業との組み合わせで増えるよう希望している学生が7割強に達している。また、ホワイトボードとの併用の希望も多いが、その切り替えの操作の面倒くささやかかる時間などを考えると、つつい省いてしまうことが多い。

PPのコンテンツはいまのところ、教師自身で制作するのが殆どであるが、VTRのコンテンツになると、分野によって、市販のものは値段が高くて数も少ない。教員同士の話をきくと、大抵はTV番組の録画である。従

って、今後VTRの授業を増やしていくためには、VTRのコンテンツの供給源を確保することが重要な課題となる。また、学生の興味を引くためには、VTRのコンテンツの選択も重要となる。

#### 注

分析のため、筆者が担当している金曜日2時限の「産業情報論」の講義において、前期でVTRによる授業、後期でPPによる授業をそれぞれ3回行ったあと、付録のアンケートの内容で受講生132人に対してアンケート調査を実施した。

付録：

産業情報論：

マルチメディアによる講義に関するアンケート調査

学番：

氏名

問

- 1) VTRによる講義を産業情報論以外の講義でも経験しましたか、あれば、その回数。
- 2) PowerPointによる講義を産業情報論以外の講義でも経験しましたか、あれば、その回数。
- 3) 従来の方式の講義と比較するとVTRによる講義のメリットとデメリット。
  - (1) 従来の講義：
  - (2) VTRの講義：
- 4) 従来の方式の講義と比較すると、PowerPointによる講義のメリットとデメリット。
  - (1) 従来の講義：
  - (2) PowerPointの講義：
- 5) VTRによる講義とPowerPointによる講義と比較するとそのメリットと特徴
  - (1) VTR：
  - (2) PowerPoint:
- 6) 今後VTRとPowerPointをもっと回数を増やして欲しいと思いますか、その理由。
- 7) その他：マルチメディア教育についての感想